コルネリオ会

（防衛関係キリスト者の会）

ニュースレターNo.121

2009年8月

幸　福　と　は

会員　伊藤　忠臣

（ヒルティ著「幸福論」から抜粋　永上英次訳　白水社）

幸福とは神と共にあることである。それに到達する力は魂の声なる勇気である。

「我欲より目覚め、永遠なものを捉え、愛に導かれ、地上のものを手段と解して、これを支配する。これのみが、この世にありうる幸福の状態である。」

ゲルツァーの詩の抜粋

幸福の第一の、不可欠の条件は、倫理的な世界秩序に対する確固たる信仰である。

幸福のために不可欠なもの

1　倫理的世界的秩序が存在することを確信

2　その秩序の中の仕事

3　不幸に対する熟考

不幸の三つの狙い〔同時に三つの段階を為す〕

（1）罰：行為そのものに内在する自然な帰結

（2）浄化：大いなる真面目を呼び起こし、真理の大いなる感受性を呼びおこす。

（3）自己吟味と強化：不幸が自己の力と神の力を経験せしめる。神の力をしばしば経験することによってのみ、人間の中に本当の力がわく。

（謙遜）：傲慢を凌駕して

そして、他の悩める人々に対して、深い同情の覚醒を教えることが出来る。人生の到達点は自己の運命との全き和解であり、これは‘みなぎる流れ’（イザヤ66:12）の如き、内面的な不断の平和（キリスト教はヨハネ 14：17、マタイ 11：28-29、これのみを約束）である。

この幸福は１つの実在、１つの事実、その他のあらゆる幸福のように、単なる想像の形成物ではなく、必ず醒めることになるものでもない。我々がひとたびこの世界観に身を委ねた以上、断固としてその実行に着手した以上、もはや他を捨てて省みないならば，その時、幸福は自ら我々に生じてくる。これは**内的幸福***の流れ〔JONE10：10-11、MT6:19-29、HEL4：9〕であって、この流れは年を取ると共に、ますます強大となり、我々自身の精神を実らせた後には、又他人にも注ぎ給うものである。（必読詩篇90篇）

*内的幸福とは：良心、徳、仕事、隣人愛、宗教、偉大な思想や事業に従事する生活

○幸福への道は開かれる（必読　詩篇119篇、黙示録3:8）

その身を委ねた以後は、心の内奥に揺るがない一点が生じ，不断の平和と信頼が生まれてくる。これらは外界の嵐にあっても、常に多少なりとも存続しそれがだんだんしっかりしてくる。以前には傲慢であるか、さもなければ怯懦〔臆病〕であった心が確固たるものになった。それ以後は、人はただ、日日の様々な感情や出来事に、あまり重きを置かないように心掛けさえすればよい。むしろ確固たる心根をもって毅然として生活し、幸福意識という日日の報酬を、決して感情の中にではなく、**活動の中に求めねばならない**。こうして初めて正しい仕事というものが生じるので、それはもはや間断のない心労によって奉仕される偶像ではなく、またそれを通して自己自身を崇拝する偶像でもない。（ホセア14:3）

むしろこれは、人間の最も自然な、最も健全な生活であって、こうした生活は、怠惰に基ずく多くの精神的障害から、一挙に人を救うばかりでなく、同じくこの怠惰に基ずく肉体的疾患さえも癒す力がある。この楽しい仕事は、およそ世にある健康なものであり、これにより老骨まで、水水しくなるのである。

正しく額に汗することは、絶えず新たに生まれる力と精神の快活との秘密であり，それらがあいまって、此処に**幸福感**を作り出すのである。（コヘレト3:22）

実に**健康**そのものが本来不可避的な敵に対する抵抗

力の優勢を語るものである。この抵抗力なるものも、純粋に肉体的な性質のものではなく、同時に道徳的な性格のものであるか、あるいは様々な道徳的性質によって影響を受けるものなのだ。

○**勇気**こそ**幸福**を得るための最も必要なもの

幸福とは神と共にあることである。それに到達する力は魂の声なる**勇気**である。

○真の幸福への第１歩は、生まれ、境遇、習慣等によって身につけた偏見を一切放擲する事である。

2009 年松原湖研修会報告

会員　石川　信隆

この度、6 月 16 日―18 日までの 3 日間、松原湖での研修会に参加してまいりました。松原湖研修会というのは、馬堀聖書教会が属しています日本同盟教団の牧師・信徒がともに集まり、その時代にふさわしいテーマで、お互いに研修しあうもので、毎年 10 月に開催されていましたが、今年は 9 月に日本伝道会議が札幌で開催されますので、6 月開催となりました。初夏の松原湖研修会は、緑がとても美しい自然のなかで、みことばに養われ、美味しい食事を頂きながら、普段お目にかかれないような先生方（約 260 名）と一緒に話し合う機会が与えられて、感謝なひとときでした。今年のテーマは、「教会と牧師」―この時代に立てられた牧師―という題でした。

プログラムの第 1 日目は、中谷理事長の開会礼拝に始まり「ペテロの勧めに聞こう」という題で、第１ペテロ 5 章１-4 節から、教会のリーダー・牧師・役員は、ペテロの勧めに謙虚に耳を傾けて、「群れの模範となりなさい」という、励ましのメッセージをいただきました。夕食の後、夜の講演（I）では、「教会と牧師１」と題して、松戸福音教会の斉藤成美先生によってヨハネ 21 章１５-２２節から、イエス様が自分を 3 度裏切ったペテロに対し、愛をもって「わたしの羊を飼いなさい」 といわれたみ言葉の意義を説き明かしてくださりました。頼りないペテロに対し、イエス様は、可愛いい羊たち（弱い立場にある方たち）を養いなさいと命令されました。牧師先生やリーダーたちもペテロのように、時には失敗をし、教会形成のために苦悩することがあると思います。この弱さを乗り越えるには、「あなたはわたしに従いなさい」というイエス様からの使命・命令を確認することによって、また御霊に満たされることによって任務を完うできる、とおしゃいました。

プログラムの 2 日目の講演（II）では、斉藤成美先生の 45 年にわたる牧会生活を通して、証しをされました。22 歳で宣教に燃えて松戸福音教会に赴任したとき、前任の牧師が交通事故でお亡くなりになった後でしたので、教会員が亀のように押し黙って、10 年間ぐらい教勢は伸びませんでした。しかし、斉藤先生ご自身が一人で早天祈祷を始めると、1 年後に少しずつ動きはじめたそうです。教会形成は「たこ焼きプレート」のようものだ、とおしゃいました。というのも「たこ」は固いので、「自我」を意味し、その固いたこをじわじわと焼いてやわらかくしていくのが教会形成だというのです。これは、自分の力で焼くのでなく、イエス様・主なる神様・聖霊様のお力によって訓練されて焼いていくのだそうです。

よって、教会形成は、「人間的な思い（肉の思い）」と「御霊の助け」の総合的な力によりますが、教会形成は、自分の弱さを心から認めて、まず「御霊の助け」を借りなければ教会を一つにまとめることは出来ない、とおしゃいました。人間的な思いが 60%、御霊の助けが 40%では、教会形成は難しいと思われます。

教会形成の基本は、み言葉による解決であり、朝のお祈りが不可欠です。その後、分かち合いの時間があり、ある先生がダビデ・マーチン先生は、主の祈りを一日百回唱えたそうです、とおしゃっていました。毎日の聖書の学びとお祈りが、我々信徒たちにとっても命の食物です。

さて、斉藤成美先生は、その後 36 歳で教団の理事に選ばれましたが、いつも謙虚に講壇に手をおいてひざまずいて祈っているそうです。この度の松原湖研修会では、牧師先生と信徒がお互いにともに祈りあっていくときに、教会が形成されていくことを改めて学びました。

『劔岳　点の記』について思うこと

会員　圓林　栄喜

『劔岳　点の記』という映画を見た。土木学会の学会誌に撮影を監督した木村大作氏の記事が出ており、急に作品を見たくなったのがきっかけであった。

ご承知の方も多いかもしれないが、『劔岳　点の記』は新田次郎の作品であり、点の記とは三角点の準備段階から設置までを記した詳細な記録のことである。

あらすじは陸軍参謀本部陸地測量部測量手、柴崎芳太郎たちが日本地図完成のため、その当時結成されたばかりの山岳会のメンバーとの競争の中、それまで未踏と言われていた劔岳の初登頂に挑む話である。

この小説や映画の中で、特に印象に残ったことを述べてみたいと思う。

○　任務の重要性

柴崎は志願して軍隊に入り、下士官となって除隊すると同時に陸地測量部測量官としての教育を受け文官となる。そして、陸地測量部の大久保少将から「未踏の劔岳に初登頂し、未完成である立山を中心とする三等三角網を完成する」任務を与えられる。

急峻な地形であり、危険を伴う業務であり、柴崎が文官であることから命令ではなかったようであるが、山岳会に負けられない状況で劔岳初登頂に挑むことになる。

山岳会の小島烏水という人物がライバルとして現れる。彼もまた劔岳初登頂をめざすのであるが、結果として柴崎らが先に登頂を果たす。彼と柴崎の違いは、「劔岳初登頂」をやらなければならない任務として受け止めたかどうかの違いではないかと思えてならない。

自分の目の前に時として、嫌な業務（任務）が転がり込んでくることがある。「何でこんな仕事（任務）をやらなければいけないんだ。」と愚痴をこぼしたくなる時がある。

しかし、そのような任務がなければ、問題解決能力は向上しないし、自分自身も成長しない。ある上司から「問題は解決できる人の前にしか降ってこない。」と言われたことがある。その問題を解決するためにあらゆることを考え、行動する。それはどのような仕事にも言える事である。「任務」とは大切であると思う。

○　ゲッセマネの祈り

イエス・キリストは十字架に架けられる前のゲッセマネで、「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」との祈りを捧げられた。

イエス・キリストがこの父なる神の御心を行わなければ我々の救いは成就しなかった。卑近かもしれないが、「父なる神の御心」という任務をイエス・キリストは従順に果たしたと考えることができる。

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについてきなさい。」とあるが、ある牧師から「十字架は負わされるものである。」との話を聞いた。柴崎も自らの名声のために劔岳に挑戦したわけではない。それは、任務であり、背負わされたものであった。しかし彼はその任務を甘んじて受け入れる。

我々が遭遇する日々の仕事あるいは境遇も時として背負いたくないと思うことがある。しかし、神が許されて与えられるとするならば、我々は我々のレベルで、与えられる仕事や境遇を、一つ一つ、祈りながら信仰をもって受け入れていくことが必要なことではないかと思わされた。

２００９年度総会報告

６月１３日(土)、2009 年度コルネリオ会総会が国立オリンピック記念青少年総合センターにて実施されました。2008 年度の活動報告・会計報告と 2009 年度の活動計画・予算計画及び役員人事の審議がありました。

また、2009 年度の活動計画、役員人事、会計決算及び予算は以下のようになっています。異議のある方は会宛て１ヶ月以内に申し立ててください。

2009 年度コルネリオ会活動計画および担当者

１　方　針

コルネリオ会は、２０１０東アジア大会準備のために各担当ごとの計画を概成し、会員の参画意識を高めるとともに霊的な成長と伝道の働きに寄与する。

2　活動要領

(1)　月例会の活用

ア　聖書の学びを通じ、交わりを深め霊的な一致を助長する。

イ　検討事項を持寄り、出席者全員で解決して行く。

ウ　新人の開拓に努め、来訪者との交流の場として活かす。

(2)　自衛隊宣教会、テモテ会との連携

連絡調整を密にし、協調し合う。

(3)　国外活動との連携

AMCF 及び ACCTS との意思疎通を図り、東アジア大会準備を円滑にする。

(4)　広　報

ア　ニュースレターの投稿を拡充する。

イ　ホームページの活用策の検討と内容の充実を図る。

(5)　会 計

ア　コルネリオ会会員の海外派遣宣教師、AMCF 及び ACCTS 等への献金に努める。

イ　コルネリオ会の活動、特に東アジア大会への援助献金を祈っていく。

役員人事

会長	今市宗雄
副会長・総務	伊藤忠臣
	中野久永
総務	長濱貴志
渉外	石川信隆
	矢田部稔
広報	伊藤忠臣
	圓林栄喜
	薮内隆志

会計	加瀬典文
監査	玉井佐源太
	中野秀知
顧問	石川信隆
名誉会長	矢田部稔
永久名誉	今井健次
教職顧問	金学根
	井草晋一
	徳梅陽介

2008 年度決算

（２００８．４．１～２００９．３．３１）

1　収入	前年度繰り越し	\1,550,232
	献金	\209,410
	大会参加積立金	\29,000
	利息（郵便定期貯金）	0
	合計	\1,788,642
2　支出	講師・謝礼費	\0
	ニュースレター作成・発送費	\71,995
	新聞雑誌広告費	\45,310
	集会費・例会会議費	\22,100
	慶弔費	\0
	接待交際費	\10,000
	旅費交通費	\0
	事務通信費	\0
	雑費（振り込み手数料）	\4,450
	献金（国内教会・自衛隊宣教会等）	\10,000
	大会参加費積立	\34,000
	小計	\197,855
	2009 年度への繰越金	\1,590,787
	合計	\1,788,642

2009 年度予算

（２００９．４．１～２０１０．３．３１）

1　収入	前年度繰り越し	\1,590,787
	献金(※)	\500,000
	利息	\1,000
	合計	\2,091,787
2　支出	講師・謝礼費	\50,000
	ニュースレター作成・発送費	\75,000
	例会費(10 回)	\30,000
	テモテ会、関西コルネリオ会等	\50,000
	総会費	\10,000
	新聞雑誌広告費	\30,000
	事務通信費	\20,000
	慶弔費	\20,000
	接待交際費	\20,000
	旅費・交通費（国内・国外移動）	\100,000
	雑費（振り込み手数料）	\13,500
	献金(国内教会・自衛隊宣教会等)	\150,000
	予備費	\1,523,287
	合計	\2,091,787

お知らせ

〈東アジア大会について〉

1　高価・遠東京のためマロウドホテル成田案を破棄、国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木神園町３－１）を追求する事としました。契約の成否が、申込みの１１月２日に判明します。皆様も是非お祈り下さい。

2　予備としましては、塚本研修センター（足立区六町４－１２－１１）を考えています。代替案があればお知らせください。

〈お願い事項〉

1　ニュースレターへの投稿を御願い致します。

2　ニュースレターの発行を年４回から３回へ減らしていますが、献金を覚えて下さい。

3　会員資格者が身近にいらっしゃいましたら、入会を御勧め下さい。

4　異動等される方は異動先を是非ご一報ください。

献金感謝（2009.4.1-2009.7.31）

いつもコルネリオ会を覚えていただき感謝致します。

今市宗雄、矢田部稔、石川信隆、谷岡博志、
圓林栄喜・さゆり、柳澤二郎、山下和雄、森祐理、
下桑谷玲子、桧原菜都子、玉井佐源太、吉田靖